●本誌は日本に於ける婦人運動の先驅也

世界婦人

社論

二重の戰ひ

今の社會にありては、女子は二重の階級に對す、一は男子の階級なり、一は貴族富豪の階級なり、女子は此の二重の階級に對して戰はざる可らず。

男子は常に女子を侮蔑し壓服す、舊道德、舊慣習、舊感情に依て之を行ふ也、貴族富豪は又た常に女子を凌辱し汚瀆す、威力を以て富力を以て之を行ふ也、女子は此の二重の强敵に對して戰はざる可らず。

女子は二重の强敵と戰はざる可らず、然れども敵の根據は一なり、社會の階級的組織即ち是れなり、一たび其の階級的社會組織を打破せんか、二重の敵は同時に滅亡して忽ち其影を絕す可し。

自覺せよ女子諸君

『自覺せよ女子諸君』是れ吾等第一の叫びなり、自覺ありて始めて運動あり、運動起りて始めて戰鬪あり、戰鬪ありて始めて改革あり、而して女子の境遇は僅かに改善するを得る也、吾等は常に昏睡中にある日本の女子諸君に對して、先づ『自覺せよ』と叫ばん。

男女の天職

男女の使命は素より差異なきこと能はず、女子は姙身哺育に於て特殊の使命を有し、男子は之を保護し、外界と戰ふに於て特殊の使命を有す。男女使命の異る所は唯だ是れのみ。然り而して其使命や女子が男子に對する使命に非ず、男子が女子に對する使命に非ず、皆な唯だ社會に對する使命なり、社會の一員として男女が天然的に職を異にするは唯だ是れのみ。

因襲の久しきに依る

然り、男子と女子との差異は天然の職務にあるのみ、社會の一員たる地位に於て些の相違あること無し、男子が剛强なる腕骨を擁して勞働するの時、女子は軟豐なる乳房を懷いて子を育むなり。然るに男と女との別を以て恰も階級的差別の如く感ずる者の多きは蓋し因襲の久しきに依る、然り唯だ因襲の久しきに依る。

誤謬も亦た甚だし

然るに世人多くは女子が社會的運動に加はらんとするを甚だしく嫌惡す、蓋し男女の別を以て天然的に存する階級的差異となす也、誤謬も亦た甚だしからずや、彼等は舊習慣、舊感情の束縛より脫すること能はざるなり。

女子は慈愛の化身なるか

女子は單に家庭の女子に非ず、社會の女子なり、社會の女子は社會の生命の一部なり、社會の半分は女子によりて生くるなり、然るに女子が單に家庭の内に引籠りて敢て他を顧みることなからんか、女子は實に我利私慾の化身たるべし、誰か言はん、女子は慈愛の化身なりと。

門を排して出でよ

女子果して慈愛の化身なるか、然らば彼女は、時に其暖かき家庭をも棄てざる可からず、見よ、一歩門外に出づれば、寒に泣き、餓に叫び、孤獨に悲しむ者、都下に田舍に溢るゝに非ずや、出でよ、家庭の門を排して出でよ、其處に汝の責務は汝を待てり。

夫をも棄てざる可からず

餓えたる者の爲には我が食を割かざる可らず、凍えたる者の爲には我が衣をも脫がざる可らず、而して社會同胞の爲には夫をも棄てざる可らず、社會の爲に夫を棄つる能はざる者は夫を社會より棄つる者也。夫に對する眞の愛を有せざるもの也。

吾等の道難い哉

されど難い哉、吾等の行くや。世は恰も荒野の如し、進まんと欲すれども、道は荒れ果てたり、繁れる荊棘却て前を蔽ふ、道は一步より拓かざる可らず、荊棘は一株より拔かざる可らず、吾等の道、夫れ難い哉。

一日に一步を行け

一日に一步を行け、一日に一步を行く者は百日に百步を行くなり、道甚だ遠しと雖ども限りあり、撓まず進み行かば遂に彼岸に達するを得べし。一日を怠るは一日後るゝなり、此の世の生命に限りあり、吾等は深く一日を恐れざる可らず。

一日に一人を得よ

一日に一人を得よ、一人の同志を得よ、一日に一人の同志を得ば、百日に百人の同志を得べし、かくて千人萬人百萬人千萬人、遂に天下の同胞を擧げて吾が同志たらしめよ、道を弘むる、一人よりすべし、一人に會せば必ず道を說き、二人に會せば必ず道を說く、我に誠あらば一言隻語と雖ども、空しく消え去るものに非ず、吾等は確く之を信じ、深く之を念じ、斷々乎として進まざる可らず。

ハリエット、ビーチヤー、ストウ略傳

ストウ女史の著書は澤山あるが、一番有名なのは『アンクル、トムス、キャビン』である。本書は聖書に次いで賣行の好い書物で、亞米利加のみでも五年間に五十萬部以上も賣れたといふ事である。其外に歐洲大陸の國語には翻譯の無いものはない位、亞細亞でも三四の翻譯があつて、此等での實上册數丈でも殆んど五十萬部に垂んとする。此人はライマン、ビーチャー氏の息女で、西曆千八百十二年に米大陸のリッチフヰールドに生れた。幼時の嗜好にスコットの物語歌とアラビヤンナイトであつたといへば、後年の神氣は此等に依て培養せられたのであらう。十六歳の時ハートフォード女學校で姉を助けて教鞭を執り、カルビン、ストウ教授と結婚する迄女教師をやつて居つた。ストウ教授はビーチャー博士を校長とせるシンシナチー神學校の講師であつた。此時奴隷問題が持上つて、逃と地下鐵道は此憐れなる奴隷等が加奈陀に逃走するに好機會を與ふる者になつた。恰もストウ教授の邸が停車場近くに在つたので、女史がアンクル、トムス、キャビンの大作に於て萬丈の焔を擧げたのも、此際逃亡者の事情を熟知して居つたのが導火線と成つたのであらう。此奴隷問題は學生間に盛に議論されたもので、終には幹事の方から議論をする事を禁じ、之を犯すものは退校させたので、殘つた生徒は廿人許しかないやうに成つた。逃亡奴隷法なる一書を出してからストウ教授はブランスウヰック大學のボウドヰン校に講師と成つて赴いた。女史が傑作は此地で書かれたものである。此作は最初ナショナル、エラといふ雜誌に續き物として掲載せられて居たが、後に單行本として出版せられた。此時などは刷れる端から賣れるので、夜を日に繼いで印刷してもまだ印刷しきれない位であつたさうだ。デヰッケンス、キングスレーなどは皆賞贊を受けたので、皆同情と稱贊の意を表せる返書を送つたといふ事である。後年女史が歐洲を漫遊した時は訪問の客引も切らず無慮五十萬人と聞こえた。其著書の主なものは、The Ninioter's Wooing, Pearl of Orr's Island, Oldtown Folk, My Wife J. We & Our Neighbors, Foot steps of the master, Bible Heroines, Key to Uncle Tom's Cabin. etc.

ストウ夫人

烈婦ローランを懷ふ

大手生

鐵騎十萬セインの流、
紅蓮『自由』の大文字を
旌旗に染めし荒野原、
見ゆるは其れか、幻か、
見よ、腥風のたゞ中に
立てる烈婦の、其の面に
漲る血汐、夜叉の相、
叫べる聲は人か、魔か。
『醒めよ人の子、自由の子！』、
あはれいつ迄バビロンの
河畔に涙をそゝぐべき』、
熱腸たぎりて胸を燒き、
喰ひしばりたる白玉は
露皓々と輝きぬ。
あはれ思へば其の昔、
夕榮紅き彼の夕、
詩興のしげき其の晨、
ミュドンの森に逍遙ひて
無絃仙化の一曲を
遠き彼方に送りつゝ、
奇しき自然を友とせし
其の面影ぞしのばるゝ。
眺むる空にゆく雲や
變りゆく身ぞ運命なる、
轗軻流落血と涙、
春秋こゝに三十九、
自由の叫び絶たねども、
血汐は猶も涸れねども、
一千七百五十四の
陽春花の頃はひや、
初聲あげしポントニフ
橋のかたへにそゝりたつ
コンシルゼリーの塔の影
さらばよ、塔よいざゝらば、
セントペレギに我はゆく、
斷頭臺に登るべく。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人は男子の不品行に極力反抗すべし

安部磯雄

婦人は男子の爲に忍ぶべからざるの侮辱と壓抑を受けつゝある。妻の獨占すべき夫の愛が公然他の婦人に捧げられつゝあるを見ても、妻はこれを法庭に訴ふること能はず、亦これを社會的制裁に訴ふることが出來ぬではないか。貞操は婦人の守るべきもので男子の守るを要しないものと考へられて居る。故に男子の放縱なる殆んど言語に盡すことの出來ない程である。婦人は何故に男子の不品行を堂々と攻撃することが出來ぬかといふに、これには三個の理由があると思ふ。第一は妻が離縁をなしたる後自活の見込立たぬためである。第二は子女の愛に引かされて彼等を棄て去るに忍びざること、第三は社會が彼の離縁に對して同情を表せざることである。

婦人が男子の不品行に反抗するには何時にても離縁するの覺悟がなくてはならぬ。而して此覺悟を爲すためには婦人は何時にても自活の出來る資格を有することが必要である。故に婦人の獨立は先づ生活の獨立といふことを以て始むるより外はない。女子教育を爲すものは常に婦人に自活の途を與ふるといふことを忘れてはならぬ。是れ即ち男子の横暴を制する第一手段である。

然れども妻が離婚を斷行し得ぬのは必しも自活の出來ないといふのみではない。よし充分に獨立の出來る婦人でも、子女を棄て去るに忍びないといふことが彼をして離婚を躊躇せしむる大なる原因である。想ふに大多數の婦人は全くこれが爲にあらゆる屈辱を忍んで居るのであらう。男子もこの弱點を呑込んで居るのだから。此覺悟が一たび妻の精神を束縛するを見るや。彼はソロ〳〵不品行を始むるのである。吾人は漸次法律を改めて子女を母に屬せしめ得ることゝせねばならぬ。即ち父の不品行を爲すがため母が離縁を請求する場合には彼の希望により子女を引取ることも出來る權利を與ふるのである。吾人は不品行なる父の手に小兒を托せんよりも、これを母の手に托することを至當の事と思ふ。

然れども世には自活問題の爲めや子女問題の爲め少しも心を勞するの必要なき婦人にして尚は離婚を決行し得ぬ人が少くない。彼等は其妻たる位地に戀々たるのであるかといふに、あながちそうでもない。彼等の憂ふる所は離婚したる彼等に對して社會が同情を與ふるや否やといふことである。若し輿論が今一層公平に婦人に同情するに至らば離婚を斷行することは決して難きことではない。離婚は不幸である。然れども決して不名譽でない。男子の放縱に對する婦人の武器は之を措て他に見出すことは出來ない。吾人は我國の婦人が速に男子の不品行に對して一大反抗を試みんことを望む。これやがて婦人の解放を意味するのみでなく、亦男子をして自省謹愼せしむる最良の道である。

○次號豫告

小説 志士の末期(二)	二葉亭四迷
未定	木下尚江
未定	石川半山
裁縫	軍地うら
日本料理	素悅孝子
園藝	久田二葉
衛生顧問	某女醫
小説 北山おろし	池、雪蕾
未定	加藤眠柳
ルイズ女皇傳	記者

海内時事

○足尾坑夫の大活動

本月四日足尾よりの飛電は、議會操縱にのみ熱中せる内務當局者の腦神經を突如として震駭せしめ候。越て五日の新聞には、或は三號或は二號活字の大々的見出しにて、「足尾銅山の大騷擾」の記事は掲げられ、六日—七日—八日、日は一日と通信の詳なるに從つて、梅見に狂へる都人士もいやまし耳を欹て目を張りて、此珍らしき事件に渾身の好奇心を傾注いたし候。事實は概ね諸君の知りたまふ如く、其動機や實に偶然にして、決して多くの新聞記者、當局者が云ふ如く、社會主義者の煽動に由りしものにあらず、血氣にはやれる坑夫等平生の鬱憤が、或る機會に觸れて、一時に爆發いたし候者、其運動に秩序なく統一なき事、恰かも往年の日比谷事件に似通ひたるにても明かに候。殊に滑稽に感ぜられ候は平民新聞特派員の報導が何れの事件の左迄に大なるに非ざる事を申候に反して、他の紳士閥諸新聞が異口同音に暴動の實に激甚なるを記し候と、足尾の警察官が最初其効多きを認めて暴徒鎭撫を依賴致居候至誠會員(足尾勞働者を以て組織せる社會主義團體)が六日に至り突如として拘引せられ、平民新聞特派通信員西川光二郎氏も亦兇徒聚集罪の名の下に拘引せられ、更に東都に於ては重なる平民新聞社員の家宅捜索が行はれて而も一組の證據物件だになかりし事に御座候。由來當局者の所爲の間の拔け候にはいつもながら噴飯の至りに候。議會に於ける質問演說を聞きて顏色蒼白になり候憐なる原内相は、各新聞の特派員を買收致し候由、誠に當然の事ながら事實は中々に隱蔽すべからず、如何に軍隊の派出に過ぐるも、勞働者冲天の意氣は容易に抑壓すべくもあらずと存候。新紙の報導によれば、銅山全部の勞働者を解雇するに決し候由、何如に足尾の坑夫を解傭して他より新に傭入候とも、資本家對勞働者の戰爭は單に足尾銅山に限れるものに非ず、何如なる形に於てか再び戰爭の開かるべきは今より明言致し得る處に候。聞く處に依れば今回の騷擾以前、勞働者互に同盟して、雇主に要求する處あり、若し聞かれずんば全部ストライキを斷行せんとて、只管準備中なりし由、吾等は深く、此計畫の實行を見るに至らずして、暴動の起れるを悲しむものに候。

○御眞影と共に燒死す

惜しさは人の生命に候。誓うして去り候だに聊かの心殘りは有之べく候を、況して不慮の災ひに身を殺し候こそ、げに口惜しき極みなるべけれ。さりながら確固たる信念を抱き、不拔の主義に死するや恰も錦衣を故鄕に歸るが如く、鼎鑊の苦しみをも飴の甘きに比し候は古來多く見る處にして吾等の欽仰措く能はざる處に候。頃者仙臺に於ける一中學校の火災に際し、御眞影を取り出さんとして猛火の中に無慘の最後を遂げ候書記大友某に對する世論のすべては恰かも此殉難の志士に對するが如くに候ひき。論者の意も某を以て直ちに文天祥に比せしには非るべしと雖ども亦世俗の殆んどすべてが常に時代の表面に動き候波濤の爲めに或は無意識的に或は恐怖的に[illegible]致し候て、竟に時勢の眞の潮流が波濤の底に伏在致し候を知らず、果た知れるも敢て之に乘ずるの勇氣なきものなる事を辯へざるの感論にして、記者はかゝる論者自身が却て彼の恐怖的盲從の怯者に非ざるかを疑ひ候。渾沌たる明治初代の思想界を統一すべく教育勅語の渙發せられてより、御眞影は何如なる山里の小學校にも下賜あれば即ち備へられざるなく、賤の男賤の女と雖ども尊き御眞影を拜するを得て茲に教化の大本は樹立せられ候へ共、爾來二十年餘弊漸く滋くして御眞影燒失事件のある毎に時勢の潮流は步一步此カトリック的教育を離脫して今や餘す處僅かに其威儀を裝ふ形骸のみと相成候。此時に當りて此燒死事件あり、吾等は正に彼の御眞影金庫說等の愚論を排し百尺竿頭一步を進めて、御眞影を奉還し以て天皇の夢寐にも忘れ給はざる蒼生の生命と職務の安全を保持して、專ら國民教養の事に力を盡さん事を切望致し候。

○谷中村の危急

栃木縣谷中村に對する當局者の亡狀は今や益々其度を高めつゝあり候。政府者が常に名を法律に假りて暴横の行爲をなし候は殊に腹たゝしき極みに候。今回官報を以て發表せられ候土地收用公告なるもの左の如し、

土地收用公告

左の事業は土地收用法により土地を收用することを得るものと認定す

一、起業者　栃木縣
一、事業の種類　瀦水池設置
一、起業地　栃木縣下都賀郡藤岡町野木村地内

右公告す

明治四十年一月廿六日

內閣總理大臣侯爵　西園寺公望

詳細は前項田中翁消息を御覽被下度候。

○奧村五百子女史逝く

愛國婦人會の大立物として雄名隱れなき奧村女史は癌者逆症に病死せられ候由、既に七旬に近き老年を以て意氣の壯なる血氣の男子をも凌ぎし該女史を失ひしは、生前何等の交なかりし吾等さへ何となく心淋しく感じ候、吾等は同女史が日本の婦人に一種の暗示を與へられし事を衷心より感謝する者に候。

○女子授產場の設置

北海道小樽區奧石森鑛氏及[illegible]信徒は[illegible]の如き慈善的[illegible]を設置し、既に婦女子の失業者を收容し、目下女工十四名ありといふ、吾等は此種の事業の勃興せんことを祈り候。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

屈從の妻女

門田稲葉

人の妻たる可きの必要條件は、所謂屈從するに在り、然も余が此斷案は、余の獨斷私議に非ずして、即ち現社會は、唯だ余をして、玆に此問題に筆を呵するの已むなきに至らしめたる而已。

借問す、屈從は何故に人の妻たる可き者の爲に、必要條件なる乎。請ふらくは、之を現社會の事實に徴せよ。女子たる者は嫁し行くか、若くは婿を迎ふるに於て、始めて生存の意義を知るが如し。然るに女子の好配偶を得て嫁し、好配偶を得て之を迎ふるや、事の曲直を問はず、物の理非を論せず、舊弊なる習慣、陳套なる教育は一も二もなく、默々として、良人の意に屈從せしめつゝ在り。若し夫れ、良人の心に反抗し、然も耐え難きの情に耐え、忍び難きの事に忍ぶ能はざらんには、乍ちにして良人の一喝に逢ひ、不貞節無節操の女として、良人の爲に或は名譽を毀損さるゝに至らん。

然るに良人は之に反し、最も愛す可き妻女を冷かなる家庭に閉し、晝夜ともに家を外にし、身を酒池肉林の間に横へ、婀娜婚容の美形を侍らし、酒色に沈湎して、更に我が家庭を顧みざる者多し。是に於てか、余は切に之を思ふ、何者の虚僞漢が、偕老同穴、比翼連理などゝ云へるかを。即ち此冷かなる家庭を作すの始めは、幾んど常套語の如き、偕老同穴、比翼連理の表情をば、華燭の典と名けて結べるに非ずや。

然れども、最初妻女の爲には、敢て勞するをも意に介せざる良人は、幾もなく之を厭ふに至り、愛情次第に薄らぎ來り、妻女を酷使苛役し、快樂を偕にせずして、却つて苦痛のみを與ふるに至る也、即ち『願作貞松千歳古。誰論芳槿一朝新。百年同謝西山日。千秋萬古北邙塵』の句を實にせし者、今は唯一醉の夢なりしを妻女に嘆せしめ、良人は遊里狹斜の巷に流連光とし、他し女の爲めに再び『願作輕羅著細腰。願爲明鏡分嬌面。與君相向轉相親。與君双棲共一身』など、惚氣、終には見越の松の忍家に、小星と相對して妻女の苦痛を快とするに至るは、所謂中流以上の家庭に多く見る處也。

是れ現社會の歷々として證する所、而も中流以上の紳士、若くは貴族なるものが、内に妻女の閨怨を齒牙にかけず、外に最も同情すべき婦人を玩弄物と爲し、口を拭ふて澄し居るは、豈に惡む可きの極みに非ずや。然も内に蟄居するの妻女は如何、彼等は猜疑の眼を以て妻女を見、芝居見物に[illegible]の如き監守人を隨はしめ、愛嬌を撒いて應對したる男子を疑ひて妻女を苛責し、嫉妬猜疑は常に妻女の身を堅くいましめ、屈從を以て此世を送らざる可からざる、憐れなる境遇に處する也。

良人の妻女に對する、既に斯の如く奴隷制度の弊、炳焉たるを知るに非ずや。加之、日本の法律は、姦通の罪を以て有夫の女を罰し、往々にして良人の嫉妬に出で、無辜を囹圄の人たらしむることあるのみならず、女子を無能力者と侮蔑し、政治上に參與せしめざる也。然れども、余は玆に大矛盾大滑稽の事實を、現社會に認めつゝ在り。大矛盾大滑稽とは何ぞや、獨り政治上に於てのみ、女子を無能力者と認め、教育上に於て之を認めざること即ち是れ。而も今や國民教育を此無能力者に托し、晏如たる政府者の心事を知る能はず、其他中學教員に、官吏に女子を採用しつゝ在り。

されば女子の能力如何は、既に一般の之を認むる所、即ち吾が同志の運動に、終に法律を改正せしめ、均等の權利を女子に與へ、而して屈從の妻女をも、此の如き境遇より救はざれば、徒らに狒々の如き男子の好餌となりて世を終らん也』

海外時事

○波斯文明復活の曙光

日輪の照す下に新たなるものなし、とは舊約書の言ふ所なれど、かの獅子の國太陽の國なる波斯に於ては、この國從來の歷史が曾て夢想せざりし、極めて驚くべき一新現象こそ起りたれ。即ち晩生の新萌芽、憲法らしき法典の新生是也。昨日即ち客年の末日歐洲列國間に傳はれる電報は左の歷史上の新事象を報せり。曰はく、波斯國王及皇太子は今朝十時憲法の奏定に批准せり、と。此憲法なるもの、中には半ば選擧に依て選出すべき上院議員の項、下院に於て財政整理を爲すべき項をも含めるもの也。

今や波斯は衰微の淵に沈めりと雖、曾ては世界の强國として立ちたる時代もありしものなり。其最も特出せる效績はアレア族の偉大なる宗教及光彩ある文藝の興隆を促がしたるものにして、國史の頁はかのゾロアスターより、オーマー、カイヤムに至るまでの著名なる人々を以て輝かされたり。

此數世紀に亘りて波斯は、益々滅落の底に陷り行くが如くなりしが、今歳玆に波斯文明は復活の曙光動き初め、波斯國民は覺醒の意氣を喚起さむとするに至れり。

○ジヨセフン、バトラー夫人逝く

本年一月一日、ナーザンバーランド州のウーラーに於てジヨセフン、バトラー夫人は其奮闘の生涯を終れり。敬虔なる夫人が公生涯は實にクラップ孃（後ニューハム専門學校長）の高等女學校設立運動に極力援助せるに始まる。此運動は更に大學擴張運動と連關し、之が導火線となつてリバープール其他の各州に大學の設置を見るに至れり。されど夫人が奮闘の生涯中最も主要なるは、本國及大陸諸邦の惡德に對する國家の條例に反對せる事也。千八百六十六年より八十三年に迨び、夫人は彼の傳染病法案と稱せらるゝ者の廢止の爲に盡力し、十七年間の苦鬪は端なくも英國社會の最劣等の人々の嫉妬を招き困難と危險と身邊に蝟集し來る。夫人が政治上の事業を一貫して渝らざる。者は本國の勞働者並に婦人よりの同情及歸依厚かりし事にして、假令挺身して之に當りしかば社會に於て最悲運なる又他より擯斥せられたる階級の人の爲にする者なりしにもせよ之を喚んで十九世紀の凡ての事業少くとも殆んど凡ての事業、即ち防禦とより寧ろ救濟の事業なりと爲すを妨げざる者也。民主々義的の同情厚かりし夫人も、之が爲めに其生涯を擧げて奮闘せる社會上の害惡の根底には經濟上の問題が深く橫はつて存せるをば認めたりとも覺えざりき。

○婦人連の擾動

▲▲▲十六人の婦人獄に入る▲▲▲

政治社會婦人同盟會は其聲言を繼續し國會議事堂の附近に於て示威運動をなさむと決せり、此志向に基き各地方の婦人に飛檄して、入獄の決心を以て速かに倫敦に押寄せ來る事を揚言せしめたり。かくして聚集したる女流選拔隊は正に召喚せらるべきものなりしならむ。

此政策と相呼應して女流の黨員は前週の木曜の朝議事室の聖ステファン門に集ひ會を開きしが、散會を命せらるゝや、件の女丈夫連は閾を推して闖入せんとし、警官に拖せられて内六名は捕拿せられたり。其内五人はマンチェスター州の選拔隊にして一人の男はペシック、ローレンスの許に在る若男なり、此等の囚人は翌日科料二十志拘禁十四日に處せられたり。月曜の夕は殆ど十二人の女傑は議事堂の中央應接室に入るを許され玆にて集會を開きしも、遂に場外に出されたり。後警入らむとを請て十一人拘留せられ火曜に科料廿志二週間の禁錮に處せられたり。

○煩悶中の婦人

昨年十二月廿七日紐育に於て、該市ゼ、ジ、フェルプス、ストークス夫人の主唱に關る婦人社會黨結社は開催せられたり。此結社の目的とする所は、婦人は社會黨運動の成功に必要なる者なるが故に、一國の婦人を婦人教育者の意識して組織せる潮流中に網羅せんとするに在り。

ストークス夫人の言ふには、「婦人結社の志す所は一に社會黨の主張を公平に公衆の前に示し、以て吾人の要求する所が果して正當なるか或は不正なるかを判斷せしむるに在り。若し吾人にして婦人の贊翼を得ん乎、吾人は正に戰に於て打克てるものなり」と。

ゼ、チ、フェルプス、ストーク氏は會合に於て演說せり、而して其夫人の演說及び婦人間に於ける行動は甚だ同氏に感動を與へたり、婦人の會合者は無慮五百人以上と註せらる。

○滿洲の女馬賊

誰か謂ふ、婦人に剛勇の意氣なしと、誰か謂ふ、婦人に統率の度量なしと。滿洲に於ける女馬賊の如きは最も吾等の意を强うするに足るものあり。日露戰役の當時北滿洲に三名の女傑現はれ、其名を花胡蝶（八十二）一枝花（二十二）一丈青（十七）と呼び何れ劣らぬ[illegible]、頗る稀なる美人にして、夙に高天、高海、天河などの諸豪傑を麾下に從へ、二千餘名の部下を率ゐて滿洲、蒙古の間に出沒し、近來に至つて愈々其勢威を逞うし、屢々激河を渡つて卜魁城を襲擊し、黑龍江將軍達氏を困しめ、目下奉天の趙將軍より遣はしたる援兵と斉々哈爾方面に於て交戰中なりといふ。其用ふる武器の如きは皆新式銃にして、趙將軍も其勝敗如何に付き危惧の念を抱きつゝありといふ。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

紀元節の感

福田英子

今日は吾が出獄後十九年目の紀元節なり。あゝ此紀元節の吾身にとりて何如に感慨多き事よ。

二十餘年の二昔し前、吾が淋しき囹圄の中に在りし時、冷かなる夢を破つて、温かき光明に接するの喜びを持ち來せしは實に此日なりき。吾等同志六十有餘名の國事犯大赦令が、二十二年憲法發布の慶事に際して發せられしは實に此二月十一日なりしなり、獄を出てゝ吾等は同胞が狂せんばかりの歡迎を受けて其當時吾が小さき胸は只嬉しさに殆んど張り裂けんとしたりき。

爾來二十有餘年彼の歡喜に接し、此歡迎を受けし吾は、社會のため、人道のため、果して何の貢獻をかなせし。徒らに國家を騷がしたる吾は、亦徒らに蚤々の生を送りて、日々回顧の涙にくるゝのみ、あゝ思へば〱實に耻多き吾身なるかな。

四年前の紀元節には、過去の蹉跌の數々を想ひ出で、流石に女性の涙もろく、しみ〲と吾身の憂きに泣きたりしが、其思ひ出を末永く紀念せんが爲め、罪の半生を懺悔して少しにても苦悶懊惱の淵より脱するを得んと、筆を下せる『妾の半生涯』は實に此日より其稿を起したるなりき。

其年の十月、稿終りて是を世に公にし其序文に於て吾は烏滸がましくも斯く宣言しぬ。「過去のみといはず、現在のみといはず、妾が血管に血の流るゝ限りは未來に於るも妾は戰はん、妾が天職は戰に在り。人道の罪惡と戰ふに在り。此天職を自覺すればこそ、回顧の苦悶、苦悶の昔しも懷かしくは思ふなれ」と。而して又、「先に政權の獨占を憤ふれる民權自由の叫びに熱狂せし妾は、赤心、資本の獨占に反抗して、貧者の救濟に傾ける」をも告白しぬ。爾來四星霜を經るも、依然として吳下の舊阿蒙、苦悶は日々に彌增すのみ。

あゝ苦悶！今年も亦かはらぬこの苦悶の中に此日を迎へ、而かも罪深き、迷多き敗殘の身を以て、大膽にも婦人の解放を叫び、女性の周圍に纒綿する惡習慣惡法律の改廢に、あらん限りの力を盡さん事を天下に告白す。嗚呼何たる僭越、何たる無謀ぞや、顧みれば學識なく才能なく、蹉跌に蹉跌を重ねたる身にして敢て此大事業を企てし耻かしさ、怖ろしさ、あゝ吾は到底煩悶の身なり、懊惱の身なり。たゞ抑へ難き衷心の情緒を吐き盡し狂ひ〱て死なんのみ。

請願運動の經過

其後諸方の同志から續々調印濟みの請願用紙が到着いたしましたから、取り纏めて經驗ある今井歌子姉に請願書案の浄書、製本等を御依頼いたしました處、十一日午後五時同姉の手より、衆議院議員江原素六氏の許に御差し出しになつたそうですから、遠からず請願委員會の議題に上る事と存じます。本議題に上ります時は、私共同志の婦人率つて傍聽に出掛けたいと思ひます、英國議會に於ける婦人のそれとは少し違ひますが、是亦一種の示威的行動となつて、議案通過にも多大の利益がある事と存じますから、若し其日時が判りましたら、萬障御差繰り當つて、御出席あらん事を希望いたします。尙其日時及び會合の方法等は追つて本誌上で御しらせいたしませう。

谷川のうちいづる浪もこゑたてつ　うぐひすさそへ春の山風　家隆

田中翁消息

拜啓、今日の如く福田君の御勉勵あらんには必ず「世界婦人」の永續する事毫も疑ひなしです。只離間者中傷者の爲に同志中たとへ少々たりとも寸隙を生ぜんか、忽ち大隙となるまでに惡魔に乘せらるゝの怖れあり。之れ已往に照して明かに候。誠によく御同志の御一致あらんにはイカニ少數にても少しも怖るゝ處なしと確信します。（二月十四日）

昨夜は遠藤氏と停車場田中屋に泊し議會への請願を認めて貰ひ、總理大臣の認定を門前拂にいたし度決心にて候。畢竟貴下は御經驗なれども總理の認定書公告は未だ法律にならず、官吏は金城とせるも我々は之を以て土地收用法を直に行はするものにはあらず。行政者の認識の如何には關係なき我々、正當の解釋を以て護身の覺悟なかるべからず。谷中人民死すとも之れに甘んずるもの一人もなし。只悲むべきは識者間に於て法律の範圍を脱する能はずして事情人權の貴重なるを憤慨せず、殊に我立法部帝國議會も昨年の非を改むる議論をなすものなし。

夫れ議會なるものは毎年先非を改むる權能あり、約言せば毎年々々昨年の顚覆決議の缺點を悔改むるは立法の妙所なり。而も之を知る議員少なし、甚しきは一旦決せる法律は暫く服從の義務あるものと誤るものすら多し、之れ我國體が綸言汗の如しの言葉を金玉とせる舊習の混交にして堂々たる議會亦不當決議に服從の耻辱をしらず。今日に於て谷中復活の難きを知るべきのみ。日本魂を以て誇れる所謂天保議員は此眞理を知らざるもの多し。然れども此眞理を解する人亦少なしとせず、宜しく議員を奬勵してこの因循より脱せしむべし。去る三十八年に谷中村人民の救濟を論せし内務大臣芳川君の演說は今猶速記錄中に明々たり、又元栃木縣知事白仁武は谷中の土地物件は補償處分を請求するものあれば處分すべし云云、又昨年十月同縣々會議員船田三四郞氏に對して曰く、谷中村を瀦水池とせしは政府の大失策なり、何如となれば本年九月洪水が其無功有害を證明したればなり云々と。然るに今假に土地收用法にてイヤガルに無理强制に迫害を加へて土地を奪ふ公告は例へがたなき亂法と云ふべし。此他總理大臣の公告の不適當なる條條枚擧に遑あらざれば、追て請願の運びに至るべきも不取敢御參考迄申上候。（二月一日）

拜啓谷中問題の小問題に對し、地方官食ひ餘し、内務大臣食ひ餘し、遂に總理大臣の威權を濫用するに至る。嗚呼巡査憲兵では間に合はね、兵隊を以て鎭壓に勤めんとするは嗚呼、只帝國議會が之れに協贊を與へざる未だ國民の命脉あるのみ。可憐總理大臣は此小問題の爲めに尊名を汚されたり吾人は地方官及び内務大臣等が無根の捏造を以て欺きたるに乘せられたるを惜む一日も早く御取消しあらん事をと、遠藤友四郞氏は昨一日議會に請願書を呈出せり。（二月二日）

若し夫瀦水池の必要なしとせば如何。古來必要なきもの今俄かに必要あるの理なし、殊に兵馬の紛擾に乘じて奪略するの理なし、而も之を爲したり。三十五年以來官吏心を用ゐ書理を破碎して村價を下落せしめたるものなり。而して今や土地收用法を施行す。果して政府ありと云ふか。若し夫れ假りに數百歩を讓り土地收用法もて收用するとせば村價千五百萬圓以上の代價を標準とせざるを得ず。而も吾人の之を許す能はざるは自治人民の團體を破ればなり、社會國家の基礎を支離滅裂せしむればなり、斯の如く何人にも見易き大損害なれば社會主義の人々は勿論、單に人道に心を注ぐの仁人及大政治家大法律家たるもの、傍觀すべき問題に非ざるは火を見るよりも明かなり。何卒々々東京の谷中地所を有せる救濟家諸士の御苦心を仰ぎ此大不當、大損害、大破壞の國賊を退治せられん事を御願ひ申上げ候。（二月二日）

總理大臣の土地收用法適用の認定は誠に不當のものに付、未だ法律の功能なきものと小生等認定いたし候。但し大政治家大法律家の鑑定を要すと存候。（二月二日）

川鍋岩五郞、谷中地主、東京の諸氏及其他の方面にいろ〱偽りの運動相はじめ已に谷中にまで來りて人民を欺き候間我々手數相まし困入候　御地方諸氏に早く御知らせ被下度候。（二月六日）

谷中の人民は請願に出京する能はざるほどの極度に迫り、之に對する此土地略奪の大資本家は政府を利用して今は殆んど政府全部の力もて議院の方面に大運動せり。（二月六日）

遠藤友四郞氏の京に歸るを惜みて谷中人民二十二人は同行出京せり、今夕七時にて。（二月八日）

谷中人民皆出京す、實は觀察人遠藤氏の歸京を悲みて同行せしものなり。（二月八日）

よい人の知は神なり、よい人の口は神なり、よい人の手も足も神なれば、たのまぬも神たる働きを神の命のまゝになしつゝあり。わるき人こそ教ゆるの急務あり。ために我々はわるき人をも友とせり。外觀より見れば清濁併せ呑むとか云ふへば英雄のへばなる如くなるも、けつしてしかる山氣よりせるにあらず。少しにても神の道の難を學ばんためなればなり神の遠藤氏神の働きにて出京せり。（二月九日）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

結婚後の婦人

羽仁もと子

御發行になります世界婦人の御趣意はどうかと云ふことも實は詳しく承つてないのでありますし、また伺つて見た所で、それが果して私の平生思つて居ります事と、一致するかどうかと云ふことも分り兼ねるのでありますが、兎にも角にも何か自分の考へて居ることを申し上げるやうにとの事でありましたから、舊稿を御覽に入ることに致しました。

今の多數の婦人は、結婚前と結婚後に於ける自身の位地に就て、大いなる思ひ違ひをして居ると思ひます。それは婦人が結婚すると、それまで自分の思ふまゝに氣に入つた友達と往來もし文通もして居たものが、夫といふ支配者の下に立つたので、自分の身體が自分の思ふ儘には出來ないのである、萬事夫の命令に從ひ、その保護の下に生活するのであるといふ風に考へられて居るのであります。即ち社會に獨立してゐた一人の婦人が一人の男子に占有されて、その家庭の中に隱れて仕舞つたといふやうな感じを持つて居るのであります。男女が結婚して新家庭を作らうとする始めに當つて、以上のやうな、根本の間違ひが、婦人の心に深く根を張つて居り、男子の方にも、これまで一人で思ふ存分に活動して居た者が、妻といふ手足まとひの出來たゝめに、充分に腕を揮つて見ることも、或場合には出來ないであらうといふやうな考があるならば、お互の進歩もこゝに止まり、幸にして無事太平な家庭が出來ても、健全にして限りなく發達すべき立派な家庭の出來やう筈はありません。

私の思ひますのに、獨身の時代こそ、まだ一人前の婦人でなく、兩親の監督の下に、未來の生涯の爲に修養を專一に心掛けて居る時でありますゆゑ、友達を擇ぶのでも、何所に行くのでも、まづ長上の意見を聞いてつゝましやかに行動するのが至當であつて、まだ一人前の思慮分別のない令孃の、自分一人エライつもりで我意に任せて振舞ふほど、淺ましく危險なものはありません。即ち令孃はまだ親がかりの身體で社會に顔出しをしない所のものであります。之に反して結婚は部屋住であつた婦人を社會に出すもので、婦人は結婚すると同時に、初めて一人前の人となつたのです。世の中から引込んで仕舞つたどころではなく、これまでこそ隱れてゐたものが、一人の男子に見出されて、その人と一體になり、互に相頼り相助けて、新な家庭を經營し、且は社會に對する應分の義務を果さねばならぬ、責任ある位地に立つたのです、親がゝりの身の上が一本立ちの人間になつたのです、全く自由の身體になつたのです。若し妻が全然夫といふ主權者に隷屬したもので、すべての事唯その命令通りにする丈けのことならば至つて氣樂な次第でありますが、獨立自主の身體であればこそ、その責任は更に重きを加へるのであります。家政なり育兒なり交際なり、自身の持場に就て少しも夫の厄介にならぬばかりか、餘力を以て夫の有力なる補助者となるほどの覺悟がなければなりません。私は何ぞ新たに妻となつた御婦人方に、結婚は自分を社會から引き込めるものでなく、却て一人前の婦人として、夫と共に社會の舞臺に立たせたものだといふことを深く考へていたゞきたいと思ひます。

或人々は妻は夫の支配の下に立つてゐるのではないといふことになつたなら、惡い事でない限り、夫の好まぬことでも何でも自由自在にするやうになりはしないかと申します。それは夫妻の間に何か互に不和になる事情でもありましたなら、樣々の口實の下に妻は夫の好まぬことを、夫は妻の好まぬことをするやうになるかも知れません。けれども、さる特別の事情もなく、お互に他の半身であることを自覺して居るならば、ナンで一方の好まぬことを無遠慮にもするやうなことがありませう。殊に夫が無暗にその專制權を振り廻す如き場合に於てこそ、氣の勝つた婦人の中には、間々夫の好まぬ行爲を敢てするやうなこともありませうが、眞に共同融和して夫妻の實を盡して行かうといふ時に、私は夫に支配せられる身でないと、勝手氣儘な行動をする樣なことは、日本婦人の平生には殆どあり得べからざることであります。

また或人が申します、夫の前に氣をかねて、萬事つゝましやかに取り行ふこそ婦人の美德であるものを、彼も是も獨斷で所置することになつた日には、實に殺風景なものであらうと、けれども眞實婦人の美德たるべき謙遜の德は、決して斯る氣兼苦勞といふやうな卑屈な謙遜ではありません。自身の行爲の善惡は、直ちに夫及び子女の幸不幸に關はることを知り、あらん限りの力を致して、猶且足らざるを憂ふる如き心掛けこそ、眞に婦人の謙德といふべきもので、かゝる種類の心掛けは君臣の如き間柄の夫婦には、決して望むべからざることであります。

夫妻互に驕らず、また自ら卑下することなく、一致協力して、その運命を共にすることが出來ますなら、其所に無量の同情が湧き起り、いふべからざる慰藉を感ずることが出來ませう。私はくれ〴〵もまづ御婦人方に妻は夫に隷屬したものであるといふ間違つた感情を取去つていたゞきたいと思ひます。

色餓鬼

門田稻葉

▼男の多くは色餓鬼也。迂濶り甘ッたるき口車に乘らば、其女は一生泣いて味氣なき世を送らざる可からず。戀愛など〻云ふは女を釣る手段にして、獸慾を遂げんとするは唯一の目的也。

▼『好き連れは泣き連れ』なる語は、即ち無分別なる女子の好き訓戒也。語に曰く己を愛する者の爲に形づくると、女は兎角親切にさるゝ男に惚れる也。然れども親切にして呉るゝ男、果して悉く眞の愛情に出づるか。否、否、多くは是れ獸慾本位也。女の弱點を知る者の手段也。若し此御情に絆されて、色餓鬼に許すに情慾を以てせば、幾もなく冬扇夏爐の扱ひを受、疊の表換へと等しくせられんのみ。

▼某縣の縣會議員、藝妓を四疊半に侍せしめて、藝妓税の輕減運動を約しぬ。彼れ果して何の目論見ありて、此約束を爲したるか。公職を濫用して獸慾を遂げんとしたる也。吁、度し難き色餓鬼！。

▼『長安一片月。萬戸擣衣聲。秋風吹不盡。總是玉關情。何日平胡虜。良人罷遠征。』日露戰爭の際、而も戰勝國とやらの裡面に於て、李白の子夜呉歌を實際に見る如きもの少からざりし也。

▼而も唯だ是れ閨怨に非ず。留りて故國にある征士の妻子は、欠乏に耐え、困厄を忍び、思ひを滿州に走らし、常に良人を待つに熱情を以てしき。

▼然るに軍人は凱旋の後、いとしき此妻子の歡迎に對し、報ゆるに何を以てしたるか。不義、不貞、姦婦の汚名を附し、破鏡の嘆に沈ましめたる者多きに非ずや。中には良人の出征中、操を破りたる者あらん。之れとても色餓鬼たる男の罪、最も多かる可き也。

▼慰問袋を戰地にて受取り、藤子、敏子、粒子など云ふ名を見て、其本人を想像し、年寄に艶文を送り、結婚を申込みたる滑稽談多し。而も凱旋後慰問袋の寄附者を尋ね、幾度も幾度も鄭重なる禮を述べに行き、漆ッ濃くして婦德を汚す軍人あり。此色餓鬼は即ち國家の干城とな！

▼同僚の妻を宿直部屋に於て、强姦したる小學校長福島縣下にあり。兒童を托するに危險なるは、今の教育家と稱する色餓鬼也。

惆悵吟

神川松子

寒月に鞭を擧げて
わが思ひ幾度か狂ふ
恒久に此世安かれと
祈る子の心ぞよはき

千仭の崖に身をよせて
仰ぎ見すれば雲もなき
おほ空かけてたゞ一つ
月影小う冴え渡る

寒し—寒し—あゝげに寒し
狂ふ子の思や寒し
うらゝけき春の光も
悶えるに何の望ぞ

夢は夜な〳〵枕邊に
蓬髮疎影さりながら
眼光爛と立ちたまふ
あゝ革命の猛士の影

斬魔劍右手に揮へば
一閃の下首は落ちて
世の權威すべて倒れぬ
新世紀の光の前よ

雄々しきかなや、あゝ君よ
仰ぎて君がいさはしの
埋れぬ幸福を祈るとき
われ狂亂の身はひとり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小說

志士の末期(ポリローノフ原作)

二葉亭主人譯

原作者ポリローノフは露國の社會革命黨員である。曾て同志をサラートフの獄中より救脱せんとして捕へられ、軍法會議に掛けられた結果、死一等を減じて無期禁獄に處せられ、處々の監獄を轉々して最後に驛原地總督府の管下へ移されたが、こゝで千九百三年四月といふから最初入獄してから十二年目である、脱獄を企てゝ首尾よく成功した。此短篇はペトロパーウロフスク在監當時、同じ獄窓に呻吟してゐた同志が數名あつた、その人々の紀念の爲に作したものだと云ふ。

(一)

「もう一昔になるなわ!」と彼は呟きながら額を撫でた。撫でたとて煩さく纒はる思ひの雲を拂ひ得るではないが。「もう一昔だ!」と又反覆して、腕を伸べて、骨ばかりなる爪先を凝と視め、「しかし痩せたなわ! 宛で骨と皮ばかりだ。これぢや生の親だつて見違へるだらう。ますら痩雄か……」と微笑して目を閉ぢた。

「しかし彼日の事は忘れられんなわ!」と又しても潮と湧來る思出に不知誘はれる。思へば、幾たびかの春秋を經て、今は遥かなる昔の夢とはなつたけれど、ツイまだ昨日の事のやうに思はれて、其日の事が顯然に目の前に浮ぶ。

心ゆくばかりカラリと晴れた、燬くが如き夏の日に、ウォルガの川添の野中を行くと、纖雲一つだにない蒼空に、日は高く差昇つて、輕い袖無し外套越しにヂリ〳〵と照付ける暑さ、それにも弱げず、既に道の十五露里もしてから始て疲れて渴を覺えたので、立止つて、帽子を脫つて、額の汗を拭ひつゝ、四下を視廻はした。

見渡せば千里の平蕪は日光を浴びて、茸々たる野草の穗先は銀色にちらめき、折節に何處からともなく通ふ微かなる軟風に漣だつ時には、耳に耳を差寄せて、何やら秘密の一大事を囁き、チラ〳〵と限りなき火花を散して、穗浪の末は遥かの天末に消える。左手に地の窪みたる處が見えて、雲雀が二羽其上を輪に舞ひ、その暗く聲は耳を劈くばかりで、時々空を潛つては雪白の腹を日に曝す。この窪みを一條の小川が逶迤として流れてゐる。塞つては氣色ばかりのいさゝ川となり、開いては細長い池となり、その燦として日に煌めく所を望めば、草むらの中に誰が投棄の首環かと誤たれる。

其時彼は此小川の畔に立寄つて、肩にした雜嚢を、やをら草の上に卸して、岸に垂れた靑柳の糸を押分け、皮製の帽子で川水を掬上げた。生溫い泥水では有つたけれど、眞に是れ甘露の味! 之を飮めば元氣が頓に腸に染込む想がある。飽まで飮ふで、帽子を柳の枝に掛けて曝し、雜嚢の側に腰を卸して凝と考へ込むだ。

考へる事は幾らも有る。今度が革命運動の初陣で、遊說の皮切だ。この袖無し外套を被て、下着の着易へ、贋旅券、民衆に讀ませる爲の小冊子數十部 遊說地方の地圖なんどを雜嚢に詰め込み、同志に別れて都を出てから、まだ一週間程にしかならぬ。

遊說の皮切は大成功であつた。手始めの村は去年の不作で饑饉の上に、彼の踏込む少し前に警察官に襲はれて、未納を債られ、牛馬を公賣に付せられて、さらでも人心の激昂してゐる所であつたので彼の激烈な演說は大喝采を以て迎へられ、書物を朗讀すれば、熱心に耳を傾け、談話會の時なんど、かほど下地が出來てゐれば、もう此上は書物も演說も無用とさへ思はれたことが再三あつた。口々に地主を罵り、坊主を叱し、警察官を呪ふは愚か、時とするとツアールをさへ用捨せぬことがある。曾て一人が、何と言つても我々に自由を與へたのはツアール、お蔭で奴隸は廢せられたと言ふと、もう年配の一人の農夫が之を叱して「駄目吐くでねえ! 今だとつて己達は奴隸でねえか? 昔はコレ地主の持物だつたアのが、今ぢやツアールの物に爲つたばかしの事でねえか?」といつた。

(未完)

榮光の郷

をんな

或る夜の窓より見ゆる空には星閃きぬ。何心なく美はしの空よと眺めいるまゝに星は希望を語るものよ、月は慰め顏なるものよなどおもひつゝわれらの月よ星よ花よとその美に憧れ眺めいるその樂しさ嬉しさのかくも深きはそも何故ぞこの月、星、花のわれらを引つくるにあるかとおもはれて、おのれの曾て友に語りて花の上には眞め善も美もみとめらるとのひしは、まことそが上にはこよなき慰めありて、あるときなど、さま〳〵の憂きことにいたく望失ひて此世にもあるまじう、早く神の御國にもとおもはれつゝも、ふと、庭に下り立てば足もとに咲く花一輪、何なりしか今はその名も忘れしが、目にとまりながめいりつゝ、ア、此花のあらば、ア、此花のかくあるものを、これあればわれは決して此世に失望せじとさへおもひしことありしなど、おもひ出でつゝ、此月、星、花のわれのみならすすべての人によろこび眺めらるゝは、左なりよ、月も星も花も天地の造られし創めよりのさま少しも變へず少しも僞けられざればなり、惡に染まざればなり、その創めよりの榮に居ればなり。人にして如何に德高く才ありとも、よもやその人はわれは花の高潔にまされりといひ得んや。如何なる驕慢の人もわれは花にも優りて美はしといひ得んや。月や花や星に憧がるゝ人の心のあはれさよ。そは月、星、花にも優りて造られし人の子はおぞくも惡に染みて、今はその造られしはじめの榮に遠く〳〵隔りて、そのはじめ人よりも劣りて造られし花や星の前にしらず〳〵その失はれしはじめの面影を慕ひて、ひたすらに唯憧れおもふのみそのはじめの榮の如何なりしかさへも忘れ果しなり。生れし故郷さへも忘れしなり。思へば幾年の久しきを經來りし人類の墮落さよ。あはれなるは人よ。汝よ花にも星にも月にもはた造られたる何物にも優りたる榮光にありしもの、否あるべきものなるを、驚かるゝは深き〳〵墮落の淵に沈める人の有樣かな。あはれ人の心よ、ながが歸るべきは榮光の故郷なり。

社告

毎度〳〵發行期日が遅れまして誠に申譯がございません。實は原稿の到着がいつでもおそいのと、殊に編輯主任が居りませんでいつも不馴れの臨時雇が編輯をいたしますので實に已むを得ない次第であります。

今度からは立派な編輯主任が來られましたから、萬々今までの樣な、不始末不體裁な事はなからうと思ひます。本誌は又讀賣新聞と等しく、よく豫告をしては中々出さないので評判だそうですが、本號には漸く二葉亭さんの小說が出ました。今度のはその發端だけですが、これから、だん〳〵佳境に入つて參りますから、御樂しみにして御待ちなさらん事を願ひます。池さんは未だ旅行中ですが數日後には御歸京の筈ですから、次號には大方御書き下さるだらうと存じます。石川半山さんの西洋禮式は同氏の都合により、見合せとなり、其の代り、種々な趣味多きものを御執筆下さる事はいたしました。石川旭山の競爭史論は、本職の新聞の方が人少なで、殊に多忙な方を受け持つて居ますので、執筆が中々困難ですから、暫時見合せといたします、もう一月位經ちましたら、多少暇が出來ませうから、再び稿を續ける事が出來る事と思ひます。久田二葉さんは惡性感冒で本號だけ御執筆が出來ない由御しらせがございました。短文、短歌、新詩、衛生の質問等奮つて御投稿あらん事を祈ります。

短文、短歌及新體詩を募集します

▲短文 清新の趣味ある短文を募ります。嬉しき事、悲しき事、腹の立つ事、何でも郵便端書に明瞭に記して投稿して下さい。

▲短歌 新派、別に何等の制限をも設けません、しかしあまり貴族的臭味のあるものは取りません。

▲新體詩 調の如何を問ひません。但しあまり長いのは嫌です。艶なの、優しいの、凛としたの、雄々しいの殊に革新の氣を帶びたのを歡迎します。

毎號の原稿締切は、五日と二十日です、用紙は何でもよろしい、端書は殊に輕便でよかろうと思ひます。婦人諸姉の振つて御投稿あらんことを切望いたします。

衛生に關する質問を募ります

本社では此度或る有名な某女醫に御依頼しまして、本紙上で衛生に關する諸般の御話をして頂くことになりました、同姉は主として皆樣からの御質問に應じて御話しをなさるとの事でございますから、皆樣は御遠慮なく平生御疑ひのある處を端書なり封書なりで御質問になる樣に願ひます。此頃は氣候が不順な爲め全國各地で病氣が流行致しますからこういふ立派な顧問に依つて平生の御養生をなさるのが肝要と存じます。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日本料理

嘉悦孝子述
津川千代子記

ごまどうふ
椀、推たけ
　　みつば
代り鉢、やきつけたまご

椀、まづ十人前に一合の白ごまをよくいり、水げなきすり鉢にてよく〳〵すり、鍋に入れ、水五勺にてとき、火にかけ充分にとけたら、砂糖二匁鹽少許りと、くず十匁ほどを水にてときて入れ、はげしくかきませながらねり、火からおろして小皿に杓子にてとり（小皿一ぱいにとれば滿月、半分にとれば半月形なり）前以て外の器に水を入れおき、それに小皿ごと入れるとそのまゝよくとれます。又四角にしたければ重箱か箱のやうなものにぬれぶきんをしき、その中にあけて、ひやして適宜に切ります。

推たけは小さいものなら十人前に二三十位を、一寸うで、根をきりとり、煮出し五勺と醤油二勺とで一寸煮ます。

みつばは結はへて洗ひ、三分間ほどうで水にとりひやしてしぼり、一寸五分位にきりおく。

ごまどうふを椀に盛り、推たけも汁をしぼりて入れ、みつばも入れてつゆをはりこみます。

つゆのつくり方は煮出し一升程に砂糖五匁醤油四勺とくずを茶呑茶椀一杯を水二杯にてときて、かきませてから入れ、よくかきませ、煮立つたらすぐに火よりおろし用ゐます。

代り鉢、十人前に玉葱半斤を皮をむき水洗ひして二つに切り、それを横にうすく切り、醤油一勺をかけそれを鍋に入れ、焼き麩を水につけよくしぼり、三ッ位に切りて入れ（鳥肉、牛肉など入れてもよし、之は醤油に一寸度つけて入れる。又菌類などもよし）二十個ほどの鶏卵をこわしよくかきませ煮出し五合砂糖茶呑茶椀かるく一杯醤油七勺ほど入れおかげんを見て、鍋の蓋などの上にしづかに入れ、あまり強くなき火にかけ、上にブリキ板でものせ、火をおきて、上下より焼きます。十五分間ほどたつと焼けます。箸をさして見て中から、にごりたる汁が出ないやうであれば火が通つたのでありますこれはあついうちにたべます。

袷比翼の裁縫

軍地うら子

近頃は大分袷比翼が用られて參りました故、私は之から袷附比翼の裁縫につきて申上ます。綿入でも三枚重となりますと本比翼よりは附比翼の方至極便利であります。

裁方。

上着は表裏共普通本裁の裁方積方に同じ下着表袖口は四ッざきの物丈は裏袖口と同じ。裏袖口上着と同寸法。

八ッ口同じ巾にて振より二寸程長く。下着比翼廻しは丈一尺二三寸より五六寸まで、裏裾廻しは上着裾廻しと同寸法、廻りより衽丈長く。

衽丈は上着の裏衽丈と同寸法。

衿丈上着同寸法。

上着縫方順序。

第一先づ裏に袖口を掛け、表裏袖口を合せ、袖下を四ッ縫にし、三寸程別々に縫ひ、振を縫合せ袖が出來ましたなら、表裏共脊と脇とを縫合せ、裾を合せ脊脇をとぢ、身の八ッ口を縫ひ袖を付け、次に衽裾先きを縫合せ置き、裾二三寸開きて付、後は前身を鋏みて四ッ縫にし、裾下を絎け衿を四ッ縫に付け、衿先は裏に返し衿を絎け褄とぢをし、上着が仕立上ります。

下着附比翼縫方順序。

第一袖口を上着より一方短くし、袖口を合せ口下を四ッ縫にし、後を開きて褄留の處を折込み、躾をし絎置き八ッ口上着より二分つめ、振丈表裏縫合せ後の縫込上にて五厘つめ、下にて一分つめ前巾上にて五厘、下にて二分つめ、脊脇とを縫裾を合せ上の縫込を折絎け置き、上着と同じく衽裾を造り、前身を鋏み四ッ縫ひにし、殘の衽先きは二枚にて縫ひ、躾を掛け衿先は同寸法にし、衽先を鋏み衿先きを縫ひ、衿付の縫込を縫躾をかけ、上着同様絎け置き褄とぢをし、出來上りましたなら上着に袖口を極細く絎けつけ八ッ口も同じく、袖付の處は上着に四ッ留めにし、殘は袖付に絎付け、次に身頃に裾廻しを絎け附け、衿付衽付の處[illegible]く絎付けて仕立上ります。

福田女史足下

塞山子郎

福田英子女史足下

余は奴隷制度の下に檢束せられ、横暴なる男兒の爲に總ての權利を放棄する女子に、多大の同情を寄與する者に候。乃ち余は足下が翻へしたる旗幟の下に最も同情すべき女子の權利擴張運動に努め、帝國議會に向つて請願すべき事由を、余が知れる女子の間に說き、請願用紙の記名調印を促しつゝ有之候。然るに余が知れる婦人の多くは、官吏教育家などいふものゝ夫人とか申す者に有之、良人の地位の危險に陷ゐる可きを憂ひ、記名調印に對して躊躇逡巡し居る爲め、成績太だ不良に候。されど余は目前の成績に頓着せず、只管に婦人問題に就き、餘力の有らん限り、此小心翼々たる婦人の前に說き居候へば、今播きたる種は必ずや萌芽を發する季節も可有之かと信じ申候。

余は先づ食はず嫌ひなる警察官より說伏するの考へ、大膽なる運動を試むべく候。

鑛夫の初日

林觀陽

其日の義務を卒へ、多くの職友と共に、寄宿舍の一室に枕を並べて横はりたる夕よ。吾は雜多なる感慨に充たされて、到底眠る能はざりき。室の中央に吊されたる石油燈の火光は、朧朧として自由と獨立とを奪はれたる經濟囚の容貌を射て、其燈身は蟪々と唸りて油の不足を訴へ居れり、滂沱として涙は湧き來りぬ、吾は泣聲洩さじと垢に黑光せる毛布の端を嚙みしめ、心の裡に泣きぬ。吁故郷に歸りたし、かのアラビヤンナイトにある如く魔術を以て世界の地面を短縮し得るならば、吾は一足飛びに故郷に歸る可きなり今朝は奈何に驚く可く亦恐怖す可き事實を目撃したるかよ、想ひ起すだに戰慄を覺ゆ。

涙に早せる監督者に導かれて坑内に降り多くの職友と見稼せし時、吾は人を以て渠等を見る能はざりき。日光に浴する事の稀なる幸薄き渠等の眼は暗く濁り其毛髪は塵と垢との爲めに灰色と變れり。其両頰は慘烈なる苦影を浮べ其顏色は斯世の者と思はれざるまでに蒼黑めり、打込む鶴嘴の響と罵り叫ぶ男女の聲とは相混じて耳を襲ひ奈何に我心に苦惑を與へたるかよ。多くの人の子がこの甚深なる怨恨と淋漓たる汗血の犧牲に依て生產せられたる石炭を用ゐて無事生活し得るは非常なる僥倖と思はざる可らざるなり。

嗚呼美はしき自然の色、藍碧の空白千鳥の樂、太陽の惠みを恣に賞觀する能はざる渠等は何の罪ありてか斯世からなる地獄に墮ち、左右の手より自由と獨立とを奪はれ、鬼の如き監督者に鞭打たれて、牛馬の如く激働せざる可らざる歟。渠等の中には大人もありき、老翁もありき、婦人もあれば亦我身の如き少年もありき、老弱男女種々樣々あれど、好むで此處に來らざりしに至ては皆一なり。渠等の多くは貧窮の爲め餘儀なく涙を呑むで來りしなり。或は家運の日々に傾くを見て憂慮に堪へず、愛子を人手に托し纖弱き婦女子の身を以て來りし者もあらむ或は亦此世に賴りなき可憐なる少年の人買の甘き口に欺かれて來りしもあらむ或は賃銀廉き勞働にては一家の生計を營む能はざるより、壽命の短縮するを知りつゝも進で身をこの牢獄に投せし不幸なる若者もあらむ、或は亦世話す可き子孫親戚もなく骨を此處に埋めむと覺悟せる哀れなる老翁もある可し。渠等とて人間の腹より生れたる者其呱々の聲をあげし時、其眼は輝き、其頰は淨き優しき者なりしなり。

嗚呼一葉落ちて天下の秋を知り、滴水凍つて冬の到れるを悟るとかや。吾は時の兆候を知らざる可らざるなり、彼の暗濁なる眼、灰色の髮、瘠々たる頰、蒼黑の顏色は旋て來る可き已が運命を豫告せる者に非ずや、思へば覺束なき限りなる哉是より六ケ年の春秋この暗澹たる地獄の裡に生活して果して生命を全ふし得可きか、今日自分の傍にて勞働せる婦人は語りぬ、惡臭と毒氣との間屋なる炭坑にて毎日十數時間激働する事なれば、死人病人の出づること夥しく、殊に夏に入るや、激烈なる勞働と生命を交換したる勞働者の白き柩が日毎〳〵夕暮の暗を縫ふて、夏草の茂みに隱れ行くを見ざる事なしと。ア、我肉體は奈何に强しとするも、高が一少年の事なれば、白き柩の主人となる事到底免る能はざる可し。情極まりて思はず泣聲を洩しぬ。されども疲れ果てたる職友は依然として死人の如く眠れるなり。夜は沈々と更け行きてやがて幽かに光れる燈火も油盡きて消えぬ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第九年 日本婦人 第二號

二月號概要

武門の家庭　下田歌子
女子の道徳　井上哲次郎
英文興釋　増田藤之助
觀評集　土屋弘
婦人と少年文學　嚴谷小波
身體の美　後藤ドクトル
料理法に就いて　三島博士
家庭理料　安藤喜一郎
わしたづ　佐々木信綱
神話に現はれたる魚　田川筑水
犠牲　細越夏村
閑談雜話　戸川殘花

懸賞募集!!

一　短篇　天二十圓　地十圓　人五圓
一　和文時文書簡文短文　天拾圓地五圓人三圓
一　新體詩和歌俳句　天五圓地三圓人一圓
〆切三月十五日
募集規定は一月及二月の本誌に詳し

婦人協會々員規定概要

本會々員は左の特典を有す
第一　「日本婦人」の配付を受くる事
第二　春秋二季増刊の無代なる事
第三　毎月の常集講演會に出席し當代諸名家の有益にして趣味ある講話を聞くことを得
第四　本會附屬の學校にて製作する工藝賣品の割引を受くべき事
第五　本會出版書籍を實費にて購求し得る事
第六　他の諸書籍の購入手續を依頼し得る事
第七　巡回講義に無料にて出席し得る事
第八　協會附屬の學校へ入學の便を與へ且嚴重なる監督をなす事
第九　文章詩歌の添削を乞ひ得る事
第十　近設の女子教育研究會女子文學研究會工藝研究會に出席して名士の談話を聞き又は相互に研讃するを得る事
會員たらむとする人は會費（半ヶ年分一圓二十錢一ヶ年分二圓四十錢）を添へて申込まるべし

發行所　東京市麹町區飯田町六丁目廿四番地　帝國婦人協會出版部
發賣所　東京市神田區表神保町二番地　振替口座四一〇五電話本一六一八　彩雲閣

●齒科治療　自午前八時至午後六時　神田區須田町廿六番地●
齒科醫　吉瀬才一郎
勞働者諸君に限り藥價診察料共に御随意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

新築落成移轉
小兒病　内科　外科　診療
府下淀橋町角筈（水道前）
淀橋醫院
竹下繁太郎

福田英子女史著　菊版美本肖像入

妾の半生涯

定價卅五錢、郵税六錢
第四版既に賣切、更に第五版を發行致し候

大井憲太郎等と共に有名なる大阪事件に與せし女傑景山英子は即ち本書の著者也、彼女の幼少か郷里の才媛として如何に鬟高かりしか、彼女如何にして大阪國事犯に與せしか、在獄三年の生涯は如何なりしか、如何にして情人と離れ、如何にして良人を得たるか、更に妻女として赤貧なる、慈母として悲哀なる、寡婦として多恨なる彼女の生活は如何なりしか、本書は、實に其の曲折波瀾、錯節纒綿せる一個の大悲劇を描ける也。

發行所　東京市本郷區本郷千駄木林町　日高有倫堂

伊豆三島 花島煉乳場製
名譽ある
金鶏ミルク

發賣元　東京市日本橋區大傳馬町
逸見山陽堂
（電話浪花二一五番　振替貯金口座三三九六番）

本舗　ライオン齒磨發賣元
東京神田柳原川岸　小林富次郎

○基督教こどもの本　文學士倉橋惣三君編　第一編『いらくさ』第二編『なみ子のいす』（以下順次刊行）　定價六錢　郵税二錢
○新體詩集 小野のわかれ　文學士小山内薫君著　定價二十錢　郵税不要
○繪入キリスト物語　中村春雨君著　定價十二錢　郵税不要
○加拉太書研究　宮川巳作先生著（近刊）
○女流文豪ジヨルヂ、エルオツト　松本雲舟君著　附録 アダム、ビードの梗概、サイラス、マアナーの梗概（豫告）

注意　金の價格を御注文の際は最寄郵便局にて振替貯金の用紙を貰受け表面には御送金の價格を裏面には御用向を御記載の上振替貯金口座六三三〇番中庸堂宛にて御注文被下候はゞ一々端書を御差出なくとも御用向は辨じ御送金は無料僅か手數料二錢にて然かも安全に弊店へ屆き申候

發兌　東京神田區猿樂町二十五番地九段通　中庸堂書店

商店改築大擴張

カルタ齒磨は　口中にある諸種の細菌を殺します
カルタ齒磨は　齒牙のゆるみを緊縮するの効がある
カルタ齒磨は　口内の悪臭食物滓渣の腐敗を防ぐ

絹手巾種々
造花類種々
西洋小間物

東京市京橋區尾張町二丁目八番地　電話新橋二七六七番
光明堂

カルタ齒磨は　アルカリ性なれば口内醱酵を防ぐ
カルタ齒磨は　最も微細の粉なれば齒を磨耗せず
カルタ齒磨は　常用すれば口腔齒牙の諸病を防ぐ

△一部四錢五厘、十部四十二錢、二十部八十錢
東京府豐多摩郡淀橋町角筈七六二番地
東京府豐多摩郡淀橋町角筈七六二番地
東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番地
東京市京橋區築地二丁目廿一番地